

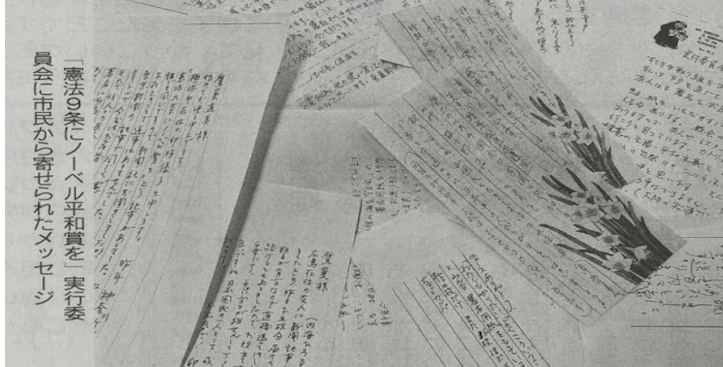
9条を保持している日本国民にノーベル平和賞を

ネット署名を以下のサイトで受け付けています。

<http://chn.ge/1bNX7Hb>

「改憲阻止に外圧妙手」

神奈川県座間市の主婦鷹巣直美さん(三三)が一人で始めた「憲法九条にノーベル平和賞を」という活動で、二万四千八百八十七の署名が集まり、ノーベル委員会への推薦を済ませた。「改憲に傾く安倍政権を、国際的な力で穏便に止める妙手だ」と期待の声が上がる。(出田阿生)



「憲法九条にノーベル平和賞を」実行委員会に市民から寄せられたメッセージ

「9条にノーベル平和賞を」署名2万超

二〇一二年の欧州連合(EU)の受賞がヒントだった。鷹巣さんが署名活動を始めたのは昨年一月。次第に人が集まり、八月に市民実行委員会ができた。問題は、ノーベル委が認めた賞への推薦人を探すことだったが、推薦人の資格を持つ学識者が関心を持ってくれた。結局、今月一日のノーベル委の締め切りまでに、学者ら四十二人が推薦人に名を連ねた。個人か団体でなければ受賞できないので、実際は「憲法九条」ではなく、「九条を保持する日本国民」という形で推薦された。

過去の平和賞受賞者

2005年	国際原子力機関、エルパラダイ事務局長
06年	グラミン銀行、創設者ムハマド・ユヌス氏(バングラデシュ)
07年	「気候変動に関する政府間パネル」、ゴア元米副大統領
08年	アハティサーリ元フィンランド大統領
09年	オバマ米大統領
10年	民主活動家の劉曉波氏(中国)
11年	サーリーフ・リベリア大統領ら女性3人
12年	欧州連合(EU)

改憲を目指す安倍政権への危機感がにじむものも。太平洋戦争の体験者からは「八十九歳で、少年時代から戦争だった。約七十年平和が続いているのは憲法のおかげ」「敗戦の年に満十歳で、空襲や機銃掃射で怖い思いをした。こんなことはもうごめんだ」。若い世代からも「日頃、憲法を考えない人にも目を向けてもらうきっかけになる」という声寄せられた。

署名も受賞を後押しする一定の効果がありそうだ。代表として受け取るのは安

倍晋三首相かもしれない。署名集めに協力した相模原市の男性は「歓迎すべき矛盾だ」と話す。神戸女学院大の内田樹名教授(フランス現代思想)は「九条を解釈で骨抜きにし、二二条(表現の自由)は特定秘密保護法で制約をかける。NHK経営委員の人事にも手を出し、世論誘導をして中国と戦争をしたがっているように見える。署名の多さは、『変な空気』を感じる人が増えている表れだろう」と分析し、「国内の護憲勢力では守りきれないので国際社会に訴えるのは、とっぴな話ではない」と評価する。

「自民党の改憲草案には、米国をはじめ世界各国が危機感を抱いている。九条保持は世界の願い。平和賞は外圧とはいえない内政干渉にはならない。改憲を阻止する妙手といえますよ」

実行委は今年、平和賞を逃してもあきらめない。来年も見据え、署名や推薦人集めの活動を続ける。